

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195
法人名	社会福祉法人 親孝会
事業所名	グループホーム 太陽の郷
所在地	福岡県飯塚市鯉田字古堤516番地17
自己評価作成日	平成26年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年3月23日	評価結果確定日	平成28年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人親孝会は平成6年4月に飯塚市下三緒に特別養護老人ホーム太陽の郷を開設しました。その後、ショートステイ・ケアハウス・デイサービス・居宅支援事業所を開設し運営しています。平成21年5月より、飯塚市鯉田にて介護付有料老人ホーム・グループホームを開設しました。当施設のスタッフのみでなく、法人全体で利用者の皆様(ご家族)を支える体制を整えています。地域密着型の精神を重視して利用者個人個人に合わせた介護を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護付有料老人ホームが併設された「グループホーム太陽の郷」は、今年5月に開設8年目を迎える事業所である。バリアフリーでつながる広い中庭があり、明るく開放的なリビングでは、利用者の方々が和やかに会話を楽しんだり、歌を唄ったり、希望による作品作りに挑戦したりと、日々を自由に過ごしていることがうかがえる。時には利用者の行きたい場所ややりたいことの実現に向けて個別の支援が行なわれ、時には全員で季節の花見や外食に出かける機会がある。支援の状況は運営推進会議の中で報告し、各委員は関心を持って話し合い、活発な意見交換が行われている。地域の各団体の長により構成され、地域の繋がりと町づくりを大切にする「長さん会議」の存在も頼もしく、今後も地域の認知症ケアの拠点としての活動展開が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念の基、グループホーム独自の運営方針を作成しており、職員間で共有し実践につなげている。	理念はリビングや事務室に掲示してあり、会議等にて振り返る機会を持っている。事業所の理念は法人全体の理念に基づき、数年前に職員が独自に考えて作成されている。新規採用時のオリエンテーションでは、理念の共有も重要視している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が、地区の各長が集まる長さん会議に参加して地域の情報を得ている。又、地域の行事には可能な限り参加している。	小学校の運動会や文化祭等、地域の行事には積極的に参加している。鯉田地区では事業所開設以前から、各団体の長が月1回集まる「長さん会議」が開催され、現在24団体が参加して、各活動内容を共有し、まちづくりに参画し、協力し合っている。これにより地域との相互協力はより円滑に進められている。事業所にボランティアが訪れ、余興を披露することもある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修の内容の一部を、運営推進会議において委員の方々に説明した。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的に開催している。当事業所の取り組み状況や利用実績等を報告し、ご意見やご指摘を頂いている。	利用者と家族代表・消防団・民生委員・自治会長・自治会長会長・行政職員らが参加して2ヶ月毎に開催される運営推進会議では、利用者の生活に直結した質問や有意義な助言・要望が活発に出されており、事業所は可能な限り迅速に対応している。会議への参加は広報紙で全家族へ呼びかけ、その議事録は何時でも閲覧できる状態にある。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	飯塚市地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、行政との連絡を密にとっている。又、介護相談員の訪問を受け入れている。	行政の担当者が運営推進会議に参加しており、制度の変更等、不明な点は気軽に尋ねられる関係にある。介護相談員の月2回の訪問や、ソーシャルワーカーの来所もある。飯塚市地域密着型サービス連絡協議会では、研究・研修・広報の各部会が夫々の分野で活動を展開するなか、事業所間の交流や行政との協力体制が築かれている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを実施している。玄関は併設の介護付有料老人ホームから出入りを行っている。介護付有料老人ホームの玄関は施錠していない。	身体拘束をしないケアに努めている。法人内で研修を開催し、夜勤者を除くほぼ全員が参加して理解と意識を深めている。現在センサー使用や施錠はない。リスクのある方にも、本人、家族の同意を得て、量敷きにする等、環境整備にも配慮されている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対して虐待に関する研修を行い、防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、成年後見制度を利用されている利用者がおられた。成年後見制度について研修を行った。	以前は成年後見制度を活用した方がいたため、内部研修をしたり、関係者と連携を図っていたが、最近職員による権利擁護に関する制度の理解がやや薄れているので、再度理解を深めていきたいと考えている。	入居時に権利擁護制度に関する情報提供を行ったり、必要時にすぐに対応できるよう資料の整備や職員向けの勉強会の再開が期待されます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族に重要事項説明書、利用契約書等の説明を行い、ご理解を得ている。又、重要事項説明書に変更が生じた場合は、その都度、ご家族に説明し、ご理解を得ている。但し、利用者本人に、ご理解を得るのは困難である。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。又、ご家族の来所の際にもご意見やご要望を聞いている。	日頃から家族の訪問が多い。利用料は原則直接納付していただき、来所の際に積極的に挨拶や声かけをし、家族との会話を大切にして意見や要望を聞いている。また月1回、広報紙と共に職員が持ち回りで手紙を添えて事業所での様子をお伝えしている。より深い家族との連携と家族間の交流のため、家族の集いを今秋開催予定としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、サービス向上会議、職員会議を開催しており、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	月1回、全職員による全体会議と各部署の会議があり、ケアについて共通の認識を持つため活発な意見交換がなされている。備品等の購入伺いも提出され、職員の積極的な姿勢が見える。別にリーダー会議が月1回開催され、職員の意見や提案についても検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場の環境に配慮し、職員が働きやすい環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークや派遣会社を通して職員の採用を行っており、求人票にも性別や年齢は不問と記されている。	採用に当たっては、年齢・性別・資格等に関係なく、本人のやる気と人柄を大切にしている。派遣社員から正社員への移行も前向きに検討している。スキルアップを目指し内外研修参加を推奨し、無資格者には勉強しやすいよう配慮している。職員間で協力し合い働きやすい環境づくりがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重に関しては、グループホームの理念にも掲げており、職員間で周知している。又、人権に関する勉強会を開催した。	新入職員へのオリエンテーションや全職員対象の内部研修で人権について学習し、理解を深めている。利用者の人間性を尊重したサービスの提供は法人の理念の一つであり、日々実践に励んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修案内等を配布し研修を受ける機会を設けている。又、法人内でも研修・勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス協議会を通じて、他の事業所との交流を図っている。又、サービス協議会内に研修部会、研究部会、広報部会が発足している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人の訴え、要望には素早く対応している。又、訴えを待つのではなく、こちらから汲み取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の要望は可能な限り取り入れる努力をしている。相談にも応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご家族と連絡を取り、ご本人がどのようなサービスを受けていたのか、どのようなサービスをして欲しいのかをお聞きして介護計画を作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ノーマライゼーションの理念を基に取り組んでいる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と綿密に連絡を取りながら、ご本人にあったサービスを提供出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の出身地の行事や祭りに積極的に参加出来る様に努めている。	個別支援の一環として、利用者の出身地の祭りや盆踊りに参加している。また、家族にお願いして墓参りや馴染みの店での買物・外食等に出かけている。時には自宅に立ち寄り、一時を過ごす事もあり、馴染みの人や場との関係継続を大切にしている。併設事業所に入所される知人と、合同行事の盆踊りや敬老会の際に出会い、友好を深めることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく皆が一同に集まる様に、食堂にて過ごして頂いている。職員が中に入って利用者が孤立をしない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、当事業所の行事にお誘いしたり、法要にも出席させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や言動を見て、ご本人の思いや希望を汲み取っている。又、個別処遇に力を入れている。	入居時に本人や家族から意見や意向を尋ね、日々の介護を通じても利用者の思いの把握に努めている。ケアカンファレンスや担当者会議で情報を収集・共有し、本人本位の個別の支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いて情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、利用者一人一人の状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に介護計画を立案し実施出来るように努めている。又、ご本人、ご家族の参加できる担当者会議を開催している。	家族の方に、担当者会議に出席して意見や要望を述べていただくよう呼びかけをしている。出来ない場合は事前に職員が聞き取りをし、担当者会議に反映させている。計画作成担当者は職員・看護師等の意見を聞き取り、計画作成に反映させている。評価やモニタリングは3ヶ月毎に行い、現状のケアについて検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を時系列で具体的に記録する様に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の介護付有料老人ホームの機能訓練器具を使って機能訓練を実施している。又、法人全体でバックアップ出来る体制をとっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所が、地域に浸透してきており、地域資源も活用出来る様になって来ている。更に、他の地域資源も活用出来る様に取り組みたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、協力病院である潁田病院の受診となるが、必要に応じてかかりつけ医の受診も行っている。	入居の際に、本人、家族の希望するかかりつけ医について確認を行っている。協力医療機関より、月に2回の訪問診療が実施されており、必要に応じて、かかりつけ医受診や他科受診等、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護付有料老人ホーム看護師の助言や協働があり、適切な看護や往診、受診等が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院である潁田病院は勿論の事、他の病院においても、綿密に連絡を取り合い、入退院の対応等において問題なく行えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応指針」を見直した。協力病院である潁田病院の支援の下、看取りを経験している。	入居時に重度化した場合の対応指針をもとに説明を行い、意向を確認している。状況に応じて、医師や家族を交えた話し合いの機会を持ち、方針の共有に努めている。これまでに看取りの経験もあり、会議の中で評価と振り返りを行ったり、内部研修を実施する等、チームケアの質を高める取り組みがある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時の対応」の勉強会、AEDの設置と研修を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。今後は地域との協力体制の強化や夜間対応訓練に力を入れる必要がある。	避難訓練は年2回行ない、併設の介護付有料老人ホームとの協力を確認している。消火器の取扱訓練やマイク放送時の注意点、誘導の仕方等、出来る限り実践につながるよう訓練を行っている。備蓄は厨房で一括対応している。	昼夜の時間帯や地震・風水害等、様々な想定のもと、災害対策に取り組んでいくことが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ている。一人一人の人格を尊重する事は当事業所の理念の一つである。この理念の基、さらに接遇や言葉遣いの強化に取り組まなければならない。	プライバシー保護に関するマニュアルを作成し周知を図るとともに、研修にも参加して、利用者一人一人を尊重した対応が出来るよう努めている。排泄時の声掛けや環境整備等には特に留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。しかし、利用者によっては充分汲み取れてはいない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活スタイルに応じて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ADLを考慮して利用者に調理が出来る方はおらず、併設の介護付有料老人ホームの厨房で職員が調理をしている。但し、利用者に配膳や台拭き等をして頂いている。	栄養士により作成された献立のもと、法人厨房で調理されている。利用者の希望や力に配慮しながら、職員と共に配膳や片づけを行っている。誕生日や行事食が準備されたり、行事の際のバイキング昼食や個別支援として外食に出かけることもある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事形態を提供している。食事摂取量、水分摂取量のチェックは毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声かけや誘導を行いトイレでの排泄をして頂いている。	排泄チェック表で個別のパターンの把握に努め、トイレ誘導を行っている。職員間で個々の状態を共有しながら、仕草や表情から素早く対応し、昼間は多くの方が自立されている。水分の摂取量にも注意を払い、出来る限り自然な排便を促している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設の介護付有料老人ホームと入浴設備は共用である事から入浴日は曜日を決めて週3回実施している。	併設施設と共用であるため、週3回、隔日の午後入浴を基本としているが、利用者の希望や体調に応じ柔軟に対応している。季節湯等も実施し、雰囲気を出す機会がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室という事もあり、概ね、皆、良眠されている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が好むレクリエーションを実施し楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には対応出来ていないが、個別に計画を立て、ご本人の希望にあった外出を実施している。	花見や英彦山への紅葉狩り・コスモス・紫陽花見学などは全体で出かけ、外食や買物等へは個別に外出支援をしている。日常的にも天気のよい日には、中庭で外気浴を楽しんだり、散歩に出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。当事業所側で利用者一人一人の金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や要望があれば対応出来る。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫している。居室の掃除、整理整頓に努めている。	リビングや幅広い廊下からバリアフリーで中庭につながり、外気浴や園芸が楽しめる。リスク軽減に向けた動線確保や、換気に留意しながら温度・湿度に配慮したり、清潔さが感じられるよう整理整頓したりと、環境保全に心がけている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、出来るだけ自由に過ごして頂ける様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人個人のお好みに合わせて自由に使用して頂いている。	ベットと洗面台が配置された居室には、大きな窓があり明るく開放感がある。生活習慣やリスクに配慮し、畳敷きの居室もある。冷暖房機器と加湿器が置かれ、過ごしやすい室内環境が提供されている。利用者は使い慣れた筆筒やテレビ・仏壇・ソファなどを持ち込み、写真や花を飾り、ゆつくりと過ごされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、テーブルや椅子等の配置にも配慮し安全な環境作りに努めている。		